

編修趣意書

教育基本法との対照表

※受理番号	学校	教科	種目	学年
29-62	中学校	道徳科	道徳	第3学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38光村	道徳924	中学道徳3 きみがいちばん ひかるとき		

I. 編修の基本方針

生徒一人一人が、自ら考え共に学び合うことによって、
よりよく生きる力を育みたい

主体的・対話的で深い学びによって、生徒たちの豊かな道徳性が育まれることを切に願って、次の3つの基本方針を掲げて、編修しました。



1.

「考えたくなる！」

教材の中に引き込まれて思わず自分を重ねてしまう、考えずにはいられない教科書。



2.

「語り合いたくなる！」

道徳的な価値に気づき、自らの思いや考えを伝え、他者の考えも知りたくなる教科書。

3.

「動きだしたくなる！」

一人一人が成長し、自らの力を信じ、みんなと力を合わせて、動きだしたくなる教科書。



1. 「考えたくなる！」教科書

■主体的に考えることのできる教材を選定しました。

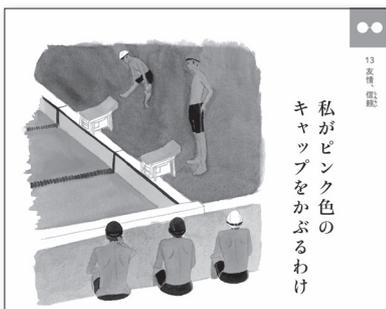
- この教科書でしか出会えない作品、筆者が生徒の学びを考えながら書きおろした作品、美しい描きおろしの絵や、迫力のある写真で、生徒の感性に訴えます。



「20 サグラダ・ファミリア 受け継がれていく思い」 (P.120-125)

- 生徒と同じ年頃の登場人物、伝記等で知られる先人、各界で活躍した人物が、悩んだり失敗や葛藤を乗り越えたりする姿など、生徒の心を捉える教材を選定しました。

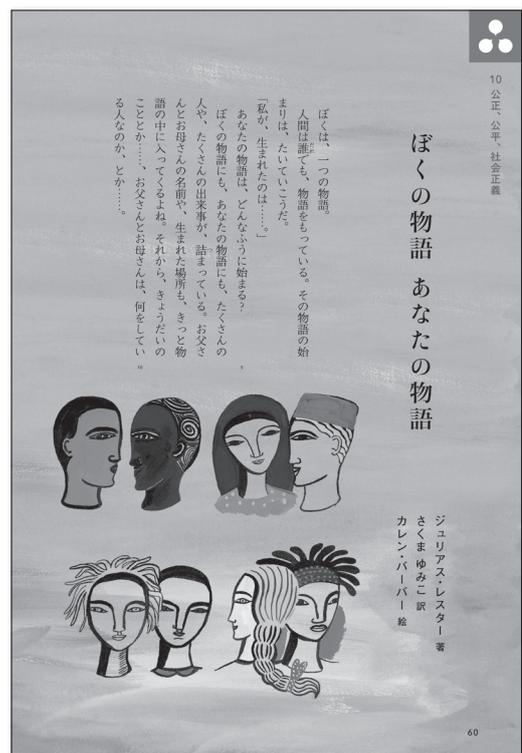
- 絵本や漫画形式の教材、データや複数の資料から考える教材など、生徒が多面的・多角的に考えられるよう、多様な教材を取り上げました。



「13 私がピンク色のキャップをかぶるわけ」 (P.82-85)



「1 メダルの向こう側に」 (P.8-12)



「10 ぼくの物語 あなたの物語」 (P.60-67)

2. 「語り合いたくなる！」教科書

■無理なく自然に考えを表現し、対話ができるよう、教材を工夫しました。

- ・自我関与によって自分の気持ちに気づいたり、道徳的な問題についての解決策を考えたりすることが、自分の考えを他者に伝えたい、他者の考えも知りたいという思いにつながります。こうした自己表現や他者との対話への意欲をかき立てる教材を、工夫しました。
- ・付録「学びの広場」には、小学校の道徳での定番教材を補充教材として収録しました。中学生に成長した今の考えを改めて語り合うことで、深い学びにつなげることができます。



「15 礼儀正しさとは」(P.90-93)

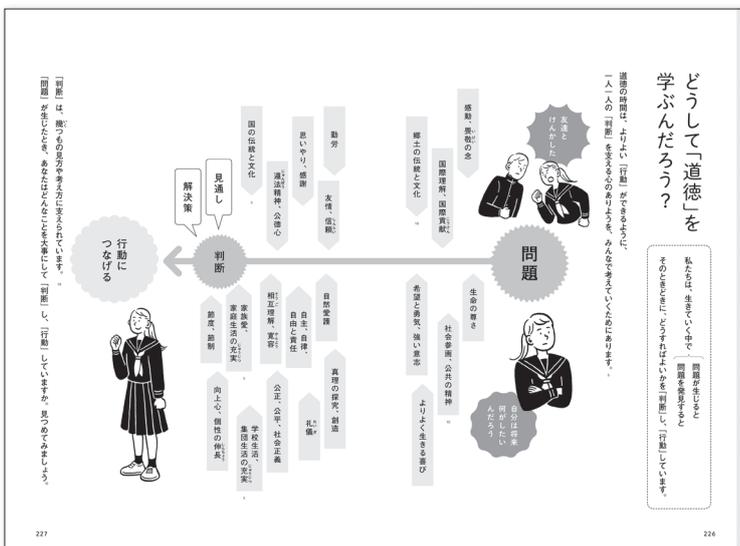


補充教材「36 手品師」(P.214-217)

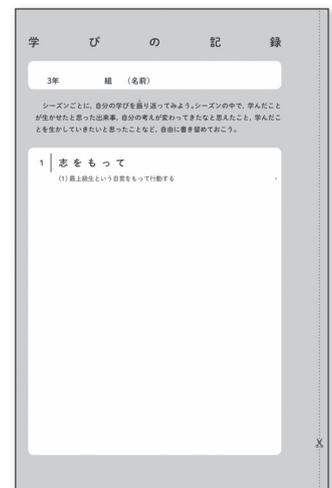
3. 「動きだしたくなる！」教科書

■自分に自信をもち、他者と力を合わせて行動したくなるような仕掛けを盛り込みました。

- ・私たちは、生きていく中で問題を発見したとき、そのときどきに判断し、行動しています。このことを「どうして『道徳』を学んだらう？」でわかりやすく図示し、道徳を学ぶ意義を明確化しました。
- ・教材のてびきには、自分の気づきや心に残った他者の発言などを書き留めることができる「私の気づき」を、巻末の折込には、1年間を通じて自分の考えを書き留め振り返ることができる「学びの記録」を設けました。折込は切り離して使えるので、教師が生徒の学びを見取る際にも活用することができます。



「どうして『道徳』を学んだらう？」(P.226-227)



「学びの記録」(P.233-236)

II. 「教育基本法」との対照表

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当頁
道徳の時間に学ぶこと		道徳で学習するテーマを一覧にし、学習の見通しをもったり振り返りやテーマ間の関連を捉えたりすることができるページ。	【第一号】 4-5
本書で学ぶ皆さんへ		それぞれの教材に示されたテーマについて主体的に対話的な学びを深めていけるよう、本書の基本的なてびきの構成を説明するページ。	【第一号】 6
シリーズ1 志をもつて 行動する 最上級生という 自己をもつて	1 メダルの向こう側に	スキージャンプの葛西紀明選手の業績を振り返る文章や資料を通して、目標に向かって強い意志をもって取り組むことの大切さについて考えることができる。	【第二号】 8-12
	2 小さな出来事	過去に自分が行った不正なふるまいを回想する人物を描いた魯迅の小説を通して、公平・公正な社会とはどのようなものかについて考えることができる。	【第三号】 13-17
	3 背番号10	挫折を乗り越えて野球部のキャプテンとしての役割を果たす生徒の物語を通して、思いやりや感謝の念をもって他者に向き合うことの大切さについて考えることができる。	【第三号】 18-23
	4 あの日 生まれた命	東日本大震災の被災者への支援プロジェクトを巡る実話を通して、家族の大切さ、生命の尊さについて考えることができる。	【第四号】 24-28
	5 「知らないよ。」	文化祭の実行委員とクラスメートとの間に起こった行き違いの物語を通して、自身の役割を責任をもって果たすことの大切さ、および協調性について考えることができる。	【第二号】 29-33
	6 二通の手紙	規則より心情を優先させたために起こったトラブルを描いた物語を通して、規則を守る意味について考えることができる。	【第三号】 34-39
	コラム 人と人との関係づくり	日常生活の中で、自分自身と相手に対して配慮したい視点を確かめ、対等で無理のない人間関係を築くために大切なことについて考えることができる。	【第三号】 40-42
	7 がんばれ おまえ	体面をつくるあまり、内心に不安を抱える生徒を描いた重松清さんの物語を通して、自分自身の個性を見つめ、伸ばしていくことの大切さについて考えることができる。	【第二号】 44-47
	8 足袋の季節	釣銭をごまかしてしまった少年時代の良心の呵責を描いた中江良夫さんの文章を通して、自分の弱さを見つめ、誠実に生きるための大切さについて考えることができる。	【第一号】 48-51
	9 アイツとオレ	対照的な性格の二人の生徒の対話を描いた本山理咲さんの漫画を通して、相互に理解し合い、高め合うために大切なことについて考えることができる。	【第三号】 52-57
	コラム いじめについて考える	ある中学校のいじめ防止の取り組みについて知り、いじめを防ぐ意識を高めることができる。	【第三号】 58-59
	10 ぼくの物語 あなたの物語	黒人作家ジュリアス・レスターの人種問題についてのメッセージを通して、差別や偏見のない公平な社会について考えることができる。	【第三号】 60-67
11 共生	世界の子供たちが置かれている困難な状況に関するユニセフなどのデータを通して、そこに存在する格差に気づき、共生していくために必要なことを考えることができる。	【第五号】 68-69	
12 電話番	北海道南西沖地震の際、奥尻島の避難所で電話番をした生徒たちの実話を通して、地域社会の課題に対して主体的に関わっていくこととする心を養うことができる。	【第三号】 70-74	
12 根本を究めて —「お茶博士」辻村みちよ	日本初の女性農学博士・辻村みちよの業績を追った文章を通して、自ら道を切り開き、真理を探究する心を養うことができる。	【第二号】 75-80	
シリーズ2 他者と共に生きる 社会を 思い描く	13 私がピンク色の キャップをかぶるわけ	水泳の全国大会をみざす生徒とそのライバルとの交流を描いた生徒作品を通して、友情について考えることができる。	【第三号】 82-85
	14 三年目の「ごめんね」	周囲になじめない生徒と交友をもとうとしながら途中で投げ出してしまった生徒の物語を通して、自分の行動に責任をもつことの大切さについて考えることができる。	【第二号】 86-89
	15 礼儀正しさととは	礼儀正しい言葉遣いやしぐさを書き出したり、柔道・大野将平選手のオリンピックでのエピソードを読んだりして、礼儀の意味を考えることができる。	【第五号】 90-93
	16 一票を 投じることの意味	選挙に関心をもち始めた生徒を描いた物語と池上彰さんの文章を通して、投票することの意味に気づき、社会参画の意識を養うことができる。	【第三号】 94-99
	コラム 社会参画	法律上認められている主な権利や義務を年齢ごとにまとめた資料を通して、社会の一員としての自覚をもつことができる。	【第三号】 100-101
	17 間の中の炎	既存の芸術作品を参考にして自分の作品を描いたことに後ろめたさを感じている生徒の物語を通して、良心に従って行動することの大切さについて考えることができる。	【第三号】 102-107
	17 情報モラル	インターネット上での情報の取り扱いについて課題に取り組み、情報モラルについて理解を深めることができる。	【第三号】 108-109
	18 聖地甲子園の土守	三世代にわたる甲子園のグラウンドキーパーの実話を通して、信念をもって働くことの喜びや意味を考えることができる。	【第二号】 110-114
	19 障子あかり	照明デザイナーの石井幹子さんが障子のあかりについて述べた文章を通して、日本の伝統文化のすばらしさと、それを継承していくことの大切さについて考えることができる。	【第五号】 115-119
	20 サグラダ・ファミリア 受け継がれていく思い	スペインのサグラダ・ファミリア建築に携わる彫刻家・外尾悦郎さんに関する文章を通して、先人への畏敬の念や、創造的な仕事に携わることの意義について考えることができる。	【第一号】 120-125
	21 先人の言葉—「論語」	「論語」の七つの章句を読んで、先人の言葉から学び、自分の生き方やもの考え方を伸ばしていく態度を養うことができる。	【第二号】 126-129
	21 なんだろう なんだろう	「自立」とは何かについてさまざまな角度から問うヨシダケンスケさんの絵と文を通して、「自立」の本質的な意味について考えることができる。	【第二号】 130-131
シリーズ3 広い視野で 理想の社会を思い描く	22 私が目ざした白 —陶芸家・前田昭博	陶芸家・前田昭博さんが陶芸の道を歩むことを決意してから現在に至るまでを語った講演記録を通して、目標をもち物事を追求していく姿勢を養うことができる。	【第二号】 132-137
	23 命の選択	祖父の意思に反して延命措置を施すことについて葛藤する家族の姿を描いた文章と、尊厳死に対する複数の立場の新聞投稿を通して、生命の尊さについて考えることができる。	【第四号】 138-142
	24 村長の決断	島の過疎化を解決するために自然を破壊し開発を進めるか否かに悩む人物を描いた物語を通して、物事を決断し行動することに大切なことについて考えることができる。	【第四号】 143-147
	24 環境	東京都市の水問題解決のための取り組み、バングラデシュにおける安全な水の確保のための支援活動を紹介し、持続可能な社会や環境づくりについて考えることができる。	【第四号】 148-149
	25 希望の義足	ルワンダ内戦で負傷した人々を支援するプロジェクトを立ち上げた吉田真美さんらの活動について書いた文章を通して、国際貢献について考えることができる。	【第五号】 150-155
	25 国際理解	国際協力に興味をもつ生徒と実際に国際協力活動を行う山本敏治さんとの対話を通して、国際貢献や国際協力のために必要な視点について知ることができる。	【第五号】 156-157
	26 恩讐の彼方に	贖罪のために難事業に取り組み僧と、彼に復讐を企てる若者との葛藤を描いた菊池寛の小説を通して、相互理解と寛容な心について考えることができる。	【第三号】 158-164
	27 『落葉』—菱田春草	日本画に新しい画法や考え方をもたらした菱田春草の生涯を描いた文章を通して、逆境にあっても信念を貫いて研鑽を積むことの大切さについて考えることができる。	【第二号】 166-171
	28 小さいこと	自分への「しつけ」として便所の草履をそろえるという習慣をつづった大佛次郎さんの随筆を通して、自らの生活を振り返り、小さなことを継続していくことの尊さを考えることができる。	【第一号】 172-175
	29 巣立ちの歌が 聞こえる	卒業式を前に自分たちの学校を意識し、自主的に校舎を掃除したり修理したりした生徒たちの物語を通して、公共心や連帯する心の大切さについて考えることができる。	【第三号】 176-180
	30 一冊のノート	認知症の祖母のことを戸惑いながらも受け入れていこうとする家族の姿を描いた物語を通して、家族愛や福祉の問題について考えを深めることができる。	【第三号】 181-187
	31 命と向き合う	生命誌研究者・中村桂子さんによる「命」に関する文章を読み、グループで話し合う活動を通して、生命の尊さについて、さまざまな観点から考えを深めることができる。	【第四号】 188-193
32 嵐の後に	父親の漁船で働く青年と幼なじみが、一度は疎遠になった友情を取り戻していく物語を通して、友情や信頼関係を築いていくために大切なことについて考えることができる。	【第三号】 194-199	
33 出会いの輝き	留学時代の恩師との交流を回想した哲学者・今道友信さんの随筆を読み、人と人とのつながりの尊さや、思いやりについて考えることができる。	【第一号】 200-203	
34 手紙	アンジェラ・アキさん作詞「手紙〜拝啓 十五の君へ〜」を通して、将来の自分の在り方について思いを巡らすことができる。	【第二号】 204-206	
シリーズ4 未来を切り開く	35 二人の弟子	二人の僧が自らの心の弱さと向き合い乗り越えようとする物語を通して、人間の強さについて考えることができる。	【第一号】 208-213
	36 手品師	子供との約束を守り通した手品師の物語を通して、誠実に生きるということについて考えることができる。小学校で既習の物語であり、自らの考え方の変化や成長を確かめることができる。	【第一号】 214-217
	その他	本編の内容に関連した資料、道徳を学習する意義や学習内容を振り返るページ、また、自己評価を書き込めるページを設け、主体的に道徳心を養っていきける教材を設けた。	【第一号】 218-236
学びの広場			

Ⅲ. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① 全ての生徒にとって使いやすく、わかりやすく

特別支援教育への配慮

教科書全体において、色覚特性や特別支援教育の観点から、専門家による校閲を受け、全ての人が使いやすいユニバーサルデザインの観点に立った編修とデザインを心がけました。

学習上の配慮

文字について

- ・文字の大きさは、発達段階、教材の内容によって、十分に配慮しました。
- ・文字の書体は、本文は原則として、書き文字への配慮を施した明朝体活字を用いました。

表記について

- ・読みの負担を軽減するため、常用漢字については、固有名詞等を除き、全てに振り仮名を付しました。
- ・読みやすさに考慮し、熟語の混ぜ書きを極力避けました。そのため、常用外漢字を用いる場合には、その熟語全体に、振り仮名を付しました。

仕様について

- ・中学生の教科書等の持ち物全体の重量に鑑み、持ち運びやすいB5判を採用しました。
- ・本文用紙は、堅牢ながら軽く、裏写りしにくい、環境に配慮した紙を採用しました。
- ・レイアウトについては、読みやすく美しい文字組、本文と挿絵とのめりはりある配置、教材間の区切り目をわかりやすくするなど、見やすい紙面構成にしました。

人権上の配慮

教科書全般にわたって、教材や挿絵に登場する人物や執筆者について、性別による偏りがないようにしました。また、人種・身体的特徴などについても多様性に意を用いるとともに、人権に配慮した記述としました。

② 今日的な課題について、考えを深めていけるように

「いじめ問題」について

全学年に、さまざまな内容項目から「いじめ問題」の解決に結び付く教材、また、コラムを用意しました。「いじめ」をしない、させない、見過ごさない姿勢が系統的に育成できるように工夫しました。3年のコラムには、いじめ防止に取り組んだ中学校の事例「自分たちにできること」(P.58-59)を掲載しました。

情報モラルについて

全学年に、情報モラルの内容を扱ったコラムを読みもの教材と組み合わせて提示し、道徳科の特質を踏まえたうえで、情報モラルについて深く考えることができるように工夫しました。3年のコラムでは、情報社会で起こるさまざまな問題について考える「情報社会に生きる」(P.108-109)を掲載しました。

地域や伝統を大切に

日本の郷土や文化を慈しみ、地域の伝統文化を大切にすることを育むために、さまざまな地域の題材や伝統文化を取り扱った教材、および付録を全学年に掲載しました。自分とは関わりの少ない地域の事例の場合でも、自分の住む地域につながられるよう、てびきも工夫しました。3年の付録では、各地にゆかりのある研究者や教育者などを紹介した「日本の先駆者たち」(P.218-221)を取り上げました。

編修趣意書

学習指導要領との対照表、配当授業時数

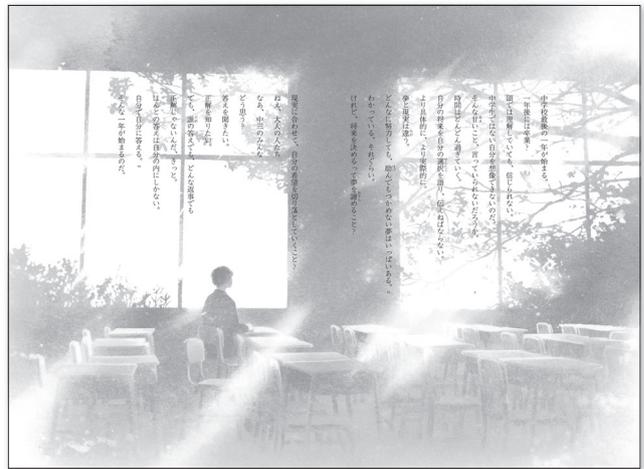
※受理番号	学校	教科	種目	学年
29-62	中学校	道徳科	道徳	第3学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38光村	道徳924	中学道徳3 きみがいちばん ひかるとき		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

1 道徳の学びと出会う

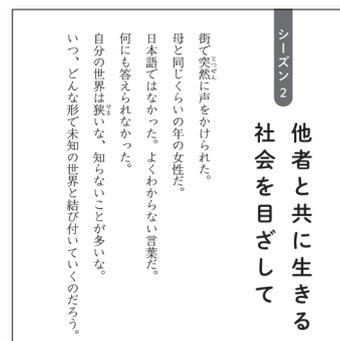
●生涯、大切にしたい教科書に

教科書を開くと、作家あさのあつこさんによる書きおろしの巻頭詩が、まず生徒に語りかけます。そこには、卒業を控えた3年生の、等身大の気持ちを描かれています。その主人公が、学び手である生徒と共に考え悩む一人として、各「シーズン」(詳細：本資料P.2)のとびらページでも生徒たちに語りかけます。



巻頭詩(見返し-P.1)

また、教材のてびきなどに設けた書き込み欄(詳細：本資料P.3)は、生徒自身の学びの記録であり、成長の証となります。巻頭詩から始まり、各とびらページの語りかけも含め、教科書全体が、1冊の物語のように、生徒と共に成長していく構成となっています。生徒にとってかけがえのない中学生時代をいっしょに過ごす教科書として、生涯大切な1冊となることを願って編修しました。



とびらページの語りかけ(P.43 シーズン2)

●道徳の授業開き

学年の冒頭には、学習指導要領で示されている内容項目(主題)を簡潔な問いにして、「22個の鍵」で示した「道徳の時間に学ぶこと」を設けました。義務教育最終学年として、これまで道徳の授業で学んできたことを振り返るとともに、学んできたことを「鍵」にして、新たな学びの「扉」を開いていこうというメッセージを伝えています。



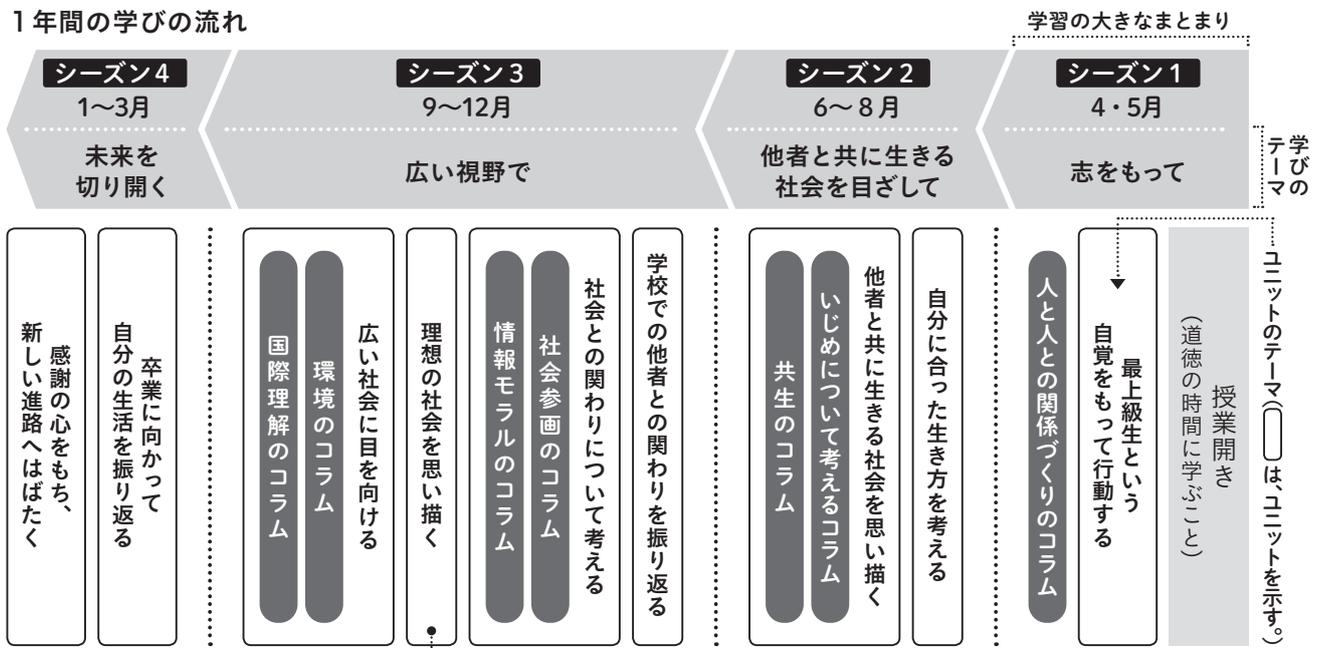
「道徳の時間に学ぶこと」(P.4-5)

2 1年間の道徳の学びの流れ

● 4つの「シーズン」——1年間の4つの「学習の大きなまとまり」に分けました

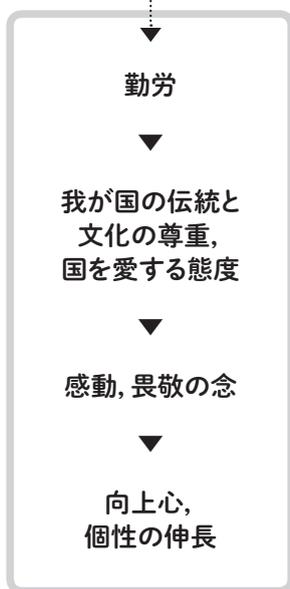
学校生活の実態と、それに伴う生徒の成長を考慮して、年間の学習を4つの「シーズン」(まとまり)に分けました。シーズンの始まりには、とびらページを設け、生徒が新たな気持ちで学習に入っていけるよう配慮しました。とびらページには、シーズンごとに「学びのテーマ」と、作家あさのあつこさんによる語りかけの言葉を掲げています。

1年間の学びの流れ



● 教材の「ユニット」化——教材を内容項目に応じて関連づけました

シーズンの中には、学びのテーマに応じて「ユニット」を設けています。ユニットは、複数の教材で構成されており、「ユニットのテーマ」に沿って、内容項目間の関連を意識した配列にしました。1時間の学びが、単独ではなく、有機的に結びつくよう配慮していますので、ユニットを通して効果的に学ぶことが期待できます。例えば、シーズン3「広い視野で」の「理想の社会を思い描く」というユニットでは、働くことの意味や、日本の伝統文化を継承することの意味について考えを深めたいうで、時を超えてつながる人々の思いを見つめ、今も残る先人の言葉から、自分がよりよく生きるためのヒントを得ることで、理想の社会を思い描くという、学びの流れになっています(左図)。さらに、これらのユニットは、P.232に示した「この教科書が目ざした3年生の姿」に向かう構成となるよう意識しています。もちろん、これらの配列は絶対的なものではなく、各学校の教育目標に照らして、他の教材と差し替えることも並び替えることも可能です。



シーズン3「理想の社会を思い描く」での流れ

● 情報モラルと現代的な課題への対応

情報モラルと現代的な課題への対応として、「情報モラル」「いじめ問題」「共生」「社会参画」「環境」「国際理解」と、「人と人との関係づくり」のこつを示したコラムを設けました。直前に配されている教材と関連させて扱うことも、独立させて扱うことも可能です。各学校で計画的、発展的な扱いとして活用することができます。

3 「考え、議論する」授業を構成するための要素

●教材ごとに「てびき」を用意——てびきは次の5つの要素で構成しました

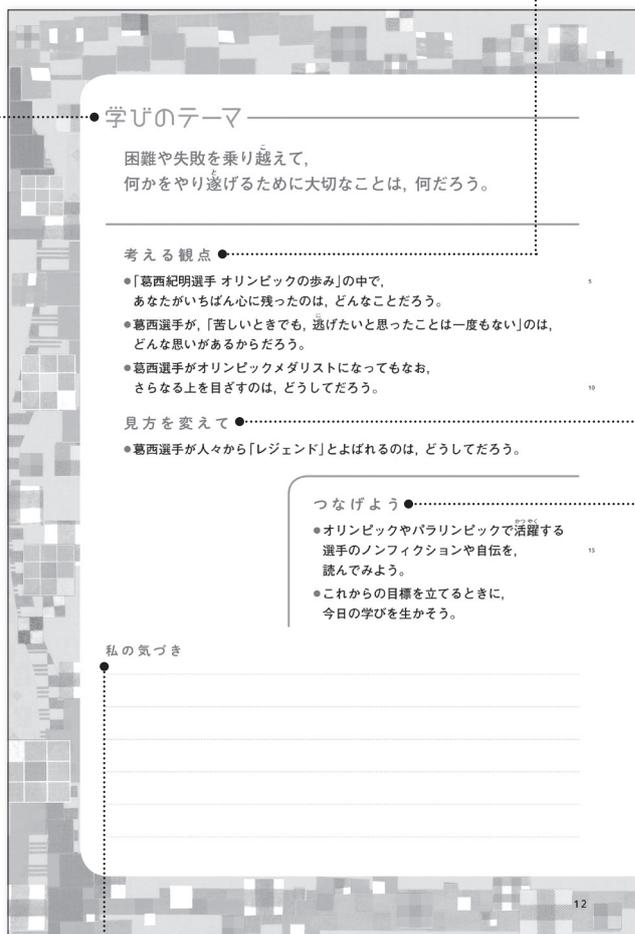
・学びのテーマ

生徒が、教材を通して何を学ぶのか（めあて）をはっきりと意識することができるよう示しました。

・考える観点

「学びのテーマ」に迫るため、主に次のような3つの発問を設定しました。

- ①道徳的な問題を明らかにする問い（課題の設定）
- ②道徳的な価値についての理解や自覚を深める問い
- ③自分に引きつける問い・テーマ的な問い（価値の一般化を意識した問い）



・見方を変えて

生徒が、**多面的・多角的**な見方や考え方ができるよう、「考える観点」とは視点を変えた問いを設定しました。

・つなげよう

該当の内容項目での学びをさらに深める観点、他教科や学校生活との関連、同じ内容項目の他教材との関連、異なる内容項目との関連、関連する図書の紹介等を、教材の特質に合わせて示しています。道徳の学びが1時間の授業で終わってしまうのではなく、そこからさらに深く考えたり、行動につなげたりできるよう工夫しました。

・私の気づき

1時間1時間、授業で学んだことから、感じたことや考えたことを書き留められるコーナーを設けました。生徒が、学んだことを振り返り、**自身の変容を実感**することができます。

巻末に「学びの記録」を用意しました。教材ごとに書き留めてきた「私の気づき」を見返しながら、シーズンごとに、そこまでの自分の学びの変化や成長について振り返り、記録できるページです。生徒の**自己評価**を通して、教師が**長期的に生徒の成長を見取**ったり、**また評価の材料として活用**したりすることができます。

4 教材化の配慮と工夫

● 発達段階に即した指導内容の重点化

全学年を通して、特に「生命を大切に作る心」の育成に重点を置き、「生命の尊さ」に関する教材をどの学年にも3つずつ掲載しました。発達段階に即して、誕生の喜びや臓器移植や尊厳死など、さまざまな観点から「命」について、学びを深めることができます。

また、学習指導要領に示されている指導内容の重点化に留意し、「自主、自律、自由と責任」「節度、節制」「向上心、個性の伸長」「希望と勇気、克己と強い意志」「よりよく生きる喜び」「遵法精神、公德心」に関する教材は学年2つずつとし、「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」「国際理解、国際貢献」に関する話題についても随所に取り上げ、教材化するよう配慮しました。

● 生徒の興味を引き出す工夫

▶ 「なんだろう なんだろう」

1年には『『正義』って、なんだろう。』、2年は『『ゆるす』って、なんだろう。』、3年では『『自立』って、なんだろう。』というテーマを設け、作者（ヨシタケシンスケさん）と問答ができるようなページを設けました。複数の道徳的価値が含まれた内容として、「考えること」を難しく捉えず、楽しむことができるよう工夫しました。



P.130-131

▶ 「人と人との関係づくり」(コラム)

全学年のシーズン1の終わりに、道徳的行為に関する体験的な学習として、人とよりよい関係を築くための「こつ」を身につける取り組みを提示しました。いよいよ中学卒業を控えた3年では、自分のことも相手のことも大切にしながら、自分も相手も心地よい関係を築く関わり方について考える「自分も相手も大切に作る」を掲載しました。学年の早い時期に設定することで、その後の生活でのヒントになるよう配慮しました。また、年間を通して、随時学級活動の時間に取り組むことも可能です。

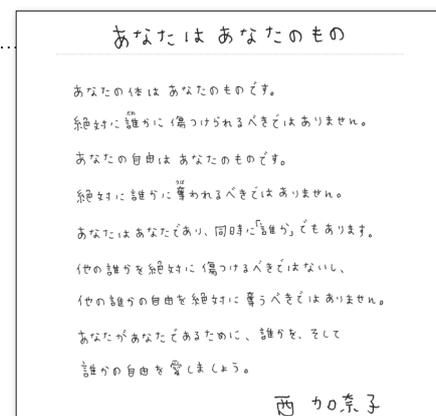


P.40-42

▶ 「あなたへのメッセージ」(巻末付録)

全学年の付録に、現在、各分野で活躍している人物からの、生徒に向けたメッセージを掲載しました。

- 1年 ヤマザキマリ (漫画家)
松岡修造 (プロテニスプレーヤー)
- 2年 サンドウィッチマン (お笑い芸人)
南谷真鈴 (冒険家)
- 3年 西加奈子 (小説家)
山極寿一 (人類学、霊長類学者)



P.230-231

Ⅱ.「学習指導要領」との対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容				内容項目	該当頁	配当時数	
		視点							
		A 主として自身に 関すること	B 主として人との 関わりに関する こと	C 集団や社会との 関わりに関する こと	D 主として生命や自然、 崇高なものとの 関わりに関する こと				
巻頭詩							見返し-1		
道徳の時間に学ぶこと							4-5		
本書で学ぶ皆さんへ							6		
シーズン1 (四月から五月)	1	メダルの向こう側に	○			(4) 希望と勇気, 克己と強い意志	8-12	1	
	2	小さな出来事			○	(11) 公正, 公平, 社会正義	13-17	1	
	3	背番号10		○		(6) 思いやり, 感謝	18-23	1	
	4	あの日 生まれた命				○	(19) 生命の尊さ	24-28	1
	5	「知らないよ。」	○				(1) 自主, 自律, 自由と責任	29-33	1
	6	二通の手紙			○		(10) 遵法精神, 公德心	34-39	1
シーズン2 (六月から八月)	7	がんばれ おまえ	○			(3) 向上心, 個性の伸長	44-47	1	
	8	足袋の季節				○	(22) よりよく生きる喜び	48-51	1
	9	アイツとオレ		○			(9) 相互理解, 寛容	52-57	1
	10	ぼくの物語 あなたの物語			○		(11) 公正, 公平, 社会正義	60-67	1
	11	電話番			○		(12) 社会参画, 公共の精神	70-74	1
	12	根本を究めて —「お茶博士」辻村みちよ	○				(5) 真理の探究, 創造	75-80	1
シーズン3 (九月から十二月)	13	私がピンク色の キャップをかぶるわけ		○			(8) 友情, 信頼	82-85	1
	14	三年目の「ごめんね」	○				(1) 自主, 自律, 自由と責任	86-89	1
	15	礼儀正しさとは		○			(7) 礼儀	90-93	1
	16	一票を投じることの意味			○		(12) 社会参画, 公共の精神	94-99	1
	17	闇の中の炎			○		(10) 遵法精神, 公德心	102-107	1
	18	聖地甲子園の土守			○		(13) 勤労	110-114	1
	19	障子あかり			○		(17) 我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度	115-119	1
	20	サグラダ・ファミリア —受け継がれていく思い				○	(21) 感動, 畏敬の念	120-125	1
	21	先人の言葉 —「論語」	○				(3) 向上心, 個性の伸長	126-129	1
		なんだろう なんだろう	○			○	(1) 自主, 自律, 自由と責任 (22) よりよく生きる喜び	130-131	
	22	私が目ざした白 —陶芸家・前田昭博	○				(5) 真理の探究, 創造	132-137	1
	23	命の選択				○	(19) 生命の尊さ	138-142	1
	24	村長の決断			○	○	(16) 郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度 (20) 自然愛護	143-147	2
	25	希望の義足			○		(18) 国際理解, 国際貢献	150-155	1
26	恩讐の彼方に		○			(9) 相互理解, 寛容	158-164	1	
シーズン4 (一月から三月)	27	『落葉』 — 菱田春草	○				(4) 希望と勇気, 克己と強い意志	166-171	1
	28	小さいこと	○				(2) 節度, 節制	172-175	1
	29	巣立ちの歌が聞こえる			○		(15) よりよい学校生活, 集団生活の充実	176-180	1
	30	一冊のノート			○		(14) 家族愛, 家庭生活の充実	181-187	1
	31	命と向き合う				○	(19) 生命の尊さ	188-193	1
	32	嵐の後に		○			(8) 友情, 信頼	194-199	1
	33	出会いの輝き		○			(6) 思いやり, 感謝	200-203	1
	34	手紙				○	(22) よりよく生きる喜び	204-206	1
学びの 広場の	35	二人の弟子				○	(22) よりよく生きる喜び	208-213	
	36	手品師	○				(1) 自主, 自律, 自由と責任	214-217	
		その他	○	○	○	○		218-236	
							合計時数	35	